

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2022年3月16日まで（2017年3月21日設定）	
運用方針	米国金融株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の金融商品取引所に上場している金融株式に投資を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。	
主要運用対象	ベビーファンド	米国金融株式マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	米国の金融株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

米国金融株式オープン （為替ヘッジあり）

愛称：USフィナンシャルズ

第4期（決算日：2019年3月18日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「米国金融株式オープン（為替ヘッジあり）」は、去る3月18日に第4期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
 フリーダイヤル **0120-151034**
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数)		株式 組入比率	株式 先物比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配	み 期騰 中落	S&P 500 (円ヘッジ、円換算ベース)	金融セクター指数 騰落率			
(設定日)	円	円	%		%	%	%	百万円
2017年3月21日	10,000	—	—	10,000.00	—	—	—	490
1期(2017年9月19日)	10,269	0	2.7	10,249.96	2.5	98.2	—	549
2期(2018年3月16日)	10,921	900	15.1	11,719.84	14.3	96.6	—	541
3期(2018年9月18日)	10,278	200	△ 4.1	11,263.71	△ 3.9	96.9	—	507
4期(2019年3月18日)	9,637	0	△ 6.2	10,606.73	△ 5.8	96.7	—	476

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) S & P 500 金融セクター指数 (円ヘッジ、円換算ベース) は、S & P 500 金融セクター指数をもとに、委託会社が計算したものです。S & P 500 株価指数とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している株価指数で、米国の代表的な株価指数の1つです。市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれたニューヨーク証券取引所等に上場および登録されている500銘柄を時価総額で加重平均し指数化したものです。金融はS & P 500 株価指数を構成するセクターの一つです。

S & P 500 金融セクター指数は、S&P Dow Jones Indices LLC (「SPDJ」) の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC (「S&P」) の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC (「Dow Jones」) の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社にそれぞれ付与されています。当ファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S & P 500 金融セクター指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) S & P 5 0 0 金融セクター指数 (円ヘッジ、円換算ベース)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
		騰 落 率		騰 落 率		
(期 首) 2018年9月18日	円 10,278	% —		% —	% 96.9	% —
9月末	10,243	△ 0.3	11,199.10	△ 0.6	97.7	—
10月末	9,526	△ 7.3	10,367.44	△ 8.0	97.7	—
11月末	9,634	△ 6.3	10,699.41	△ 5.0	97.0	—
12月末	8,493	△17.4	9,452.23	△16.1	95.7	—
2019年1月末	9,393	△ 8.6	10,354.87	△ 8.1	96.9	—
2月末	9,670	△ 5.9	10,566.80	△ 6.2	97.7	—
(期 末) 2019年3月18日	9,637	△ 6.2	10,606.73	△ 5.8	96.7	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

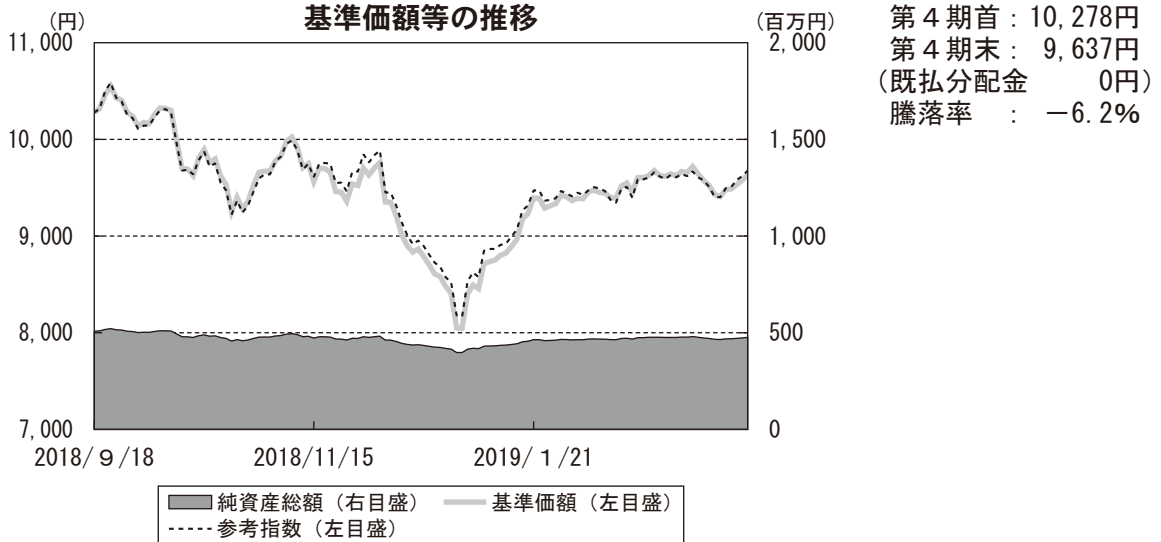
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

（第4期：2018/9/19～2019/3/18）

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ6.2%の下落となりました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

下落要因

S & P 5 0 0 金融セクター指数が下落したことなどが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

（第4期：2018/9/19～2019/3/18）

◎米国株式市況

- ・当期のS & P 500 金融セクター指数は下落しました。米国株式市況は、米中間の通商問題の先行き不透明感が高まったことや、国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを下方修正したこと、トルコにおけるサウジアラビア人ジャーナリスト失踪事件をうけた地政学リスクの高まり等を背景に期首から下落して推移しました。2019年に入ると、米中間の通商問題が解決に向かうとの期待感などを背景に株価は上昇しましたが、期を通じては下落となりました。
- ・金融セクターに関しては、米国株式市況の下落に加えて2018年11月に行われた中間選挙において民主党が下院で過半数を獲得したことで金融規制緩和が停滞するのではないかと懸念が広がったことや米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が更なる利上げに対して慎重な姿勢を示したことなどによって金利全般に対する上昇期待が低下し、銀行を中心に利ざや拡大への期待感が弱まったことなども、下落要因となりました。

当該投資信託のポートフォリオについて



期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

＜米国金融株式オープン（為替ヘッジあり）＞

- ・米国金融株式マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として米国の金融商品取引所に上場している金融株式に投資を行うとともに、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかりました。為替ヘッジを行ったため、為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。

＜米国金融株式マザーファンド＞

基準価額は期首に比べ4.6%の下落となりました。

- ・米国の金融株式を主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。銘柄選定にあたっては、米国の経済環境や金融セクターの動向をふまえ、バリュエーション（割安度）や成長性に着目して投資を行いました。
- ・株式の組入比率については期を通じて高位を維持しました。
- ・組入銘柄数については、期首の21銘柄から新規銘柄の組み入れによって、期末は22銘柄となっています。
- ・また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を随時行いました。
- ・パフォーマンスに寄与・影響した銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

◎銘柄

- ・PROGRESSIVE CORP（保険）：全米各地に展開する大手損害保険会社です。主に、個人向け自動車保険を手掛けていますが、最近では火災保険分野も強化し顧客の幅広いニーズに対応しています。同社は、インターネットや電話による直接販売の比率が高く、代理店販売からの顧客シフトにより高い保険料収入の伸びが続くことを期待し期首より保有しました。実際に、保険料収入の高い伸びが確認されたことから株価は上昇しました。
- ・AON PLC（保険）：企業向けを中心に損害保険などの販売やリスクコンサルティング、福利厚生サービスの提供を行っています。サイバー攻撃やハリケーンなど様々なリスク管理が企業に求められる中で同社の事業機会が広がると判断して期首より保有しました。実際に、保険商品を駆使した各種リスク管理需要の高まりなどを背景に業績も拡大基調となったことから株価が上昇しました。

（マイナス要因）

◎銘柄

- ・JPMORGAN CHASE & CO（銀行）：米国を代表する大手銀行です。米国株式市況全般の下落や中間選挙において民主党が下院の過半数を獲得したことで大手銀行に対する規制緩和が停滞するとの懸念が広がり、下落基調となりました。しかしながら、米国内でさえ未出店地域が存在するなど事業拡大余地が大きいと判断していることや積極的な事業拡大姿勢を評価し、継続保有しています。
- ・SVB FINANCIAL GROUP（銀行）：カリフォルニア州を地盤とする地方銀行であり、情報技術やヘルスケアなどの新興企業向け融資に注力しています。2018年末にかけて米国株式市況の調整により新興企業の資金調達環境に対する懸念が高まり、同行の融資先に対しても信用リスクに対する懸念が広がったことから、株価は下落しました。しかしながら、成長性の高い新興企業に対する融資ノウハウを活かした事業拡大期待や融資先の信用リスクについても特段の悪化が見られないことから、継続保有しています。

（ご参考）

組入上位10業種

2019年2月末

	業種	比率
1	銀行	30.7%
2	取引所およびデータ提供会社	15.5%
3	損害保険	10.5%
4	地方銀行	10.2%
5	マルチセクター持株会社	9.1%
6	投資銀行・証券会社	5.7%
7	保険ブローカー	5.1%
8	再保険	4.9%
9	生命保険・健康保険	3.9%
10	資産運用会社・資産管理銀行	2.1%

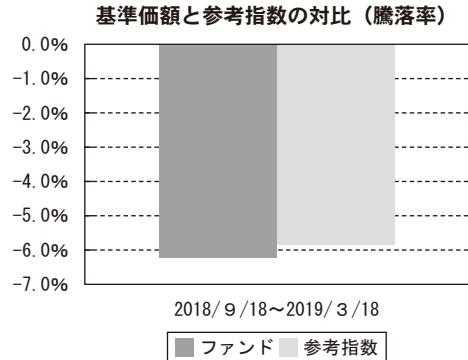
・比率はベビーファンドの純資産総額に対する割合です。

・業種は、G I C S（世界産業分類基準）の産業サブグループで分類しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

i ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はS & P 500 金融セクター指数（円ヘッジ、円換算ベース）です。



分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第4期
	2018年9月19日~2019年3月18日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	727

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

<米国金融株式オープン（為替ヘッジあり）>

◎今後の運用方針

- ・ マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。
- ・ 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。

<米国金融株式マザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・ 米国の雇用や経済環境改善は融資や各種金融サービス事業の拡大を通じて、金融セクター全般の業績を拡大させるとみています。
- ・ 2008年の金融危機以降強化されてきた金融機関に対する規制は、トランプ政権の方針により更なる強化が難しい状況にあります。このように、米国の経済成長による業績拡大に加えて、金融危機以降、投資家の懸念材料であった金融規制が少なくとも更に強化される可能性が低くなったことで、金融セクター全般が上昇しやすい環境が続くと見ています。

◎今後の運用方針

- ・ 金融セクター内の各市場の成長性や競争環境を精査することで構造的な恩恵を受けると期待される銘柄への投資を行います。
- ・ 具体的には、自動車向けの損害保険会社や金融商品にかかる取引所に注目しています。自動車向け損害保険は、自動車の高機能化によって本体価格が高くなり保険料が上昇する一方で、安全装備の充実によって事故率は低下するとみられることから有望な投資対象としてみています。取引所は、寡占化が進んでおり、米国や世界経済拡大による恩恵を厳しい競争なしに享受できると考えられることから注目しています。
- ・ なお、銘柄選定にあたっては、成長性やバリュエーション面での魅力が高い銘柄に投資することに注力する方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2018年9月19日～2019年3月18日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 81 (38) (41) (2)	% 0.855 (0.406) (0.427) (0.021)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	8 (8)	0.085 (0.085)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	0 (0)	0.000 (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	4 (3) (0) (0)	0.037 (0.031) (0.002) (0.004)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	93	0.977	
期中の平均基準価額は、9,481円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年9月19日～2019年3月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
米国金融株式マザーファンド	千口 41,489	千円 44,370	千口 45,314	千円 51,500

○株式売買比率

(2018年9月19日～2019年3月18日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期	
	米国金融株式マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	310,921千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	489,241千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.63	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2018年9月19日～2019年3月18日)

利害関係人との取引状況

<米国金融株式オープン（為替ヘッジあり）>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替先物取引	百万円 4,206	百万円 550	% 13.1	百万円 4,165	百万円 525	% 12.6

<米国金融株式マザーファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 150	百万円 4	% 2.7	百万円 159	百万円 0.519829	% 0.3
為替直物取引	38	11	28.9	49	18	36.7

平均保有割合 93.2%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	397千円
うち利害関係人への支払額 (B)	5千円
(B) / (A)	1.4%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはモルガン・スタンレーMUF G証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年9月19日～2019年3月18日)

期首残高(元本)	当期設定元本	当期解約元本	期末残高(元本)	取引の理由
百万円	百万円	百万円	百万円	
490	—	—	490	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2019年3月18日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
米国金融株式マザーファンド	千口 417,641	千口 413,816	千円 472,206

○投資信託財産の構成

(2019年3月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
米国金融株式マザーファンド	千円 472,206	% 96.6
コール・ローン等、その他	16,574	3.4
投資信託財産総額	488,780	100.0

(注) 米国金融株式マザーファンドにおいて、期末における外貨建純資産（505,108千円）の投資信託財産総額（509,118千円）に対する比率は99.2%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1アメリカドル=111.58円		
-----------------	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年3月18日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	939,926,784
コール・ローン等	14,439,265
米国金融株式マザーファンド(評価額)	472,206,270
未収入金	453,281,249
(B) 負債	463,656,123
未払金	459,644,411
未払信託報酬	4,003,994
未払利息	21
その他未払費用	7,697
(C) 純資産総額(A-B)	476,270,661
元本	494,231,778
次期繰越損益金	△ 17,961,117
(D) 受益権総口数	494,231,778口
1万口当たり基準価額(C/D)	9.637円

<注記事項>

- ①期首元本額 494,136,986円
 期中追加設定元本額 103,682円
 期中一部解約元本額 8,890円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.9637円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は17,961,117円です。

③分配金の計算過程

項 目	2018年9月19日～ 2019年3月18日
費用控除後の配当等収益額	528,518円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	156,918円
分配準備積立金額	35,286,467円
当ファンドの分配対象収益額	35,971,903円
1万口当たり収益分配対象額	727円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

○損益の状況（2018年9月19日～2019年3月18日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,943
受取利息	4
支払利息	△ 1,947
(B) 有価証券売買損益	△27,679,843
売買益	26,561,116
売買損	△54,240,959
(C) 信託報酬等	△ 4,022,545
(D) 当期損益金(A+B+C)	△31,704,331
(E) 前期繰越損益金	13,461,744
(F) 追加信託差損益金	281,470
(配当等相当額)	(156,832)
(売買損益相当額)	(124,638)
(G) 計(D+E+F)	△17,961,117
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△17,961,117
追加信託差損益金	281,470
(配当等相当額)	(156,918)
(売買損益相当額)	(124,552)
分配準備積立金	35,814,985
繰越損益金	△54,057,572

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。）の税率が適用されます。

米国金融株式マザーファンド

《第4期》決算日2019年3月18日

[計算期間：2018年9月19日～2019年3月18日]

「米国金融株式マザーファンド」は、3月18日に第4期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として米国の金融商品取引所に上場している金融株式に投資を行います。株式への投資にあたっては、米国の経済環境や金融セクターの動向をふまえ、バリュエーションや成長性に着目して組入銘柄を選定します。株式の組入比率は高位を維持することを基本とします。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	米国の金融株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		(参 考 指 数) S & P 500 金融セクター指数 (円換算ベース)		株 式 組 入 比 率	株 式 先 物 比 率	純 資 産 総 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
(設定日)	円	%			%	%	百万円
2017年3月21日	10,000	—	10,000.00	—	—	—	497
1期(2017年9月19日)	10,387	3.9	10,230.42	2.3	98.0	—	717
2期(2018年3月16日)	11,625	11.9	11,242.17	9.9	97.2	—	583
3期(2018年9月18日)	11,956	2.8	11,481.58	2.1	98.5	—	537
4期(2019年3月18日)	11,411	△ 4.6	10,895.08	△ 5.1	97.5	—	506

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) S & P 500 金融セクター指数 (円換算ベース) は、S & P 500 金融セクター指数をもとに、委託会社が計算したものです。S & P 500 株価指数とは、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している株価指数で、米国の代表的な株価指数の1つです。市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれたニューヨーク証券取引所等の上場および登録されている500銘柄を時価総額で加重平均し指数化したものです。金融はS & P 500 株価指数を構成するセクターの一つです。

S & P 500 金融セクター指数は、S&P Dow Jones Indices LLC (「SPDJII」) の商品であり、これを利用するライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社に付与されています。Standard & Poor's[®]およびS&P[®]はStandard & Poor's Financial Services LLC (「S&P」) の登録商標で、Dow Jones[®]はDow Jones Trademark Holdings LLC (「Dow Jones」) の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIIに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが三菱UFJ国際投信株式会社にそれぞれ付与されています。当ファンドは、SPDJII、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S & P 500 金融セクター指数の誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		(参 考 指 数) S & P 5 0 0 金融セクター指数 (円換算ベース)		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2018年9月18日	円	%		%	%	%
	11,956	—	11,481.58	—	98.5	—
9月末	12,110	1.3	11,604.35	1.1	97.7	—
10月末	11,266	△ 5.8	10,738.50	△ 6.5	97.5	—
11月末	11,458	△ 4.2	11,119.94	△ 3.1	97.9	—
12月末	9,899	△17.2	9,600.65	△16.4	96.0	—
2019年1月末	10,807	△ 9.6	10,363.26	△ 9.7	97.5	—
2月末	11,357	△ 5.0	10,775.61	△ 6.1	98.2	—
(期 末) 2019年3月18日						
	11,411	△ 4.6	10,895.08	△ 5.1	97.5	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

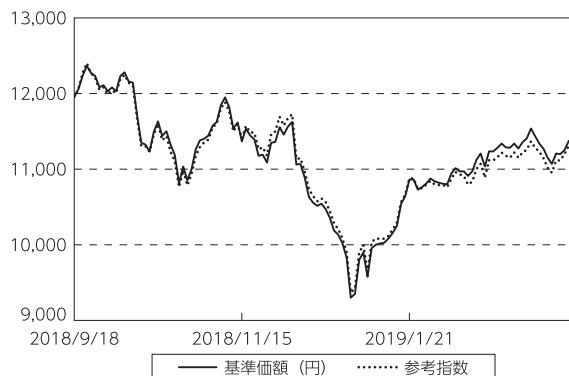
○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ4.6%の下落となりました。

基準価額等の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

●投資環境について

◎米国株式市況

- ・当期のS & P 5 0 0 金融セクター指数は下落しました。
- ・米国株式市況は、米中間の通商問題の先行き不透明感が高まったことや、国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを下方修正したこと、トルコにおけるサウジアラビア人ジャーナリスト失踪事件をうけた地政学リスクの高まり等を背景に期首から下落して推移しました。2019年に入ると、米中間の通商問題が解決に向かうとの期待感などを背景に株価は上昇しましたが、期を通じては下落となりました。
- ・金融セクターに関しては、米国株式市況の下落に加えて2018年11月に行われた中間選挙において民主党が下院で過半数を獲得したことで金融規制緩和が停滞するのではないかと懸念が広がったことや米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が更なる利上げに対して慎重な姿勢を示したことなどによって金利全般に対する上昇期待が低下し、銀行を中心にした拡大への期待感が弱まったことなども、下落要因となりました。

◎為替市況

- ・期首と比較して、0.2%の円高・米ドル安となりました。

●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・米国の金融株式を主要投資対象とし、値上がり益の獲得をめざして運用を行いました。銘柄選定にあたっては、米国の経済環境や金融セクターの動向をふまえ、バリュエーション（割安度）や成長性に着目して投資を行いました。
- ・株式の組入比率については期を通じて高位を維持しました。
- ・組入銘柄数については、期首の21銘柄から新規銘柄の組み入れによって、期末は22銘柄となっています。
- ・また、企業ごとの業績動向を踏まえつつ、株価の動きに対応した個別銘柄の組入比率調整を随時行いました。
- ・パフォーマンスに寄与・影響した銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

◎銘柄

- ・PROGRESSIVE CORP（保険）：全米各地に展開する大手損害保険会社です。主に、個人向け自動車保険を手掛けていますが、最近では火災保険分野も強化し顧客の幅広いニーズに対応しています。同社は、インターネットや電話による直接販売の比率が高く、代理店販売からの顧客シフトにより高い保険料収入の伸びが続くことを期待し期首より保有しました。実際に、保険料収入の高い伸びが確認されたことから株価は上昇しました。
- ・AON PLC（保険）：企業向けを中心に損害保険などの販売やリスクコンサルティング、福利厚生サービスの提供を行っています。サイバー攻撃やハリケーンなど様々なリスク管理が企業に求められる中で同社の事業機会が広がると判断して期首より保有しました。実際に、保険商品を駆使した各種リスク管理需要の高まりなどを背

景に業績も拡大基調となったことから株価が上昇しました。

(マイナス要因)

◎銘柄

- ・JPMORGAN CHASE & CO（銀行）：米国を代表する大手銀行です。米国株式市況全般の下落や中間選挙において民主党が下院の過半数を獲得したことで大手銀行に対する規制緩和が停滞すると懸念が広がり、下落基調となりました。しかしながら、米国内でさえ未出店地域が存在するなど事業拡大余地が大きいと判断していることや積極的な事業拡大姿勢を評価し、継続保有しています。
- ・SVB FINANCIAL GROUP（銀行）：カリフォルニア州を地盤とする地方銀行であり、情報技術やヘルスケアなどの新興企業向け融資に注力しています。2018年末にかけて米国株式市況の調整により新興企業の資金調達環境に対する懸念が高まり、同行の融資先に対しても信用リスクに対する懸念が広がったことから、株価は下落しました。しかしながら、成長性の高い新興企業に対する融資ノウハウを活かした事業拡大期待や融資先の信用リスクについても特段の悪化が見られないことから、継続保有しています。

○今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・米国の雇用や経済環境改善は融資や各種金融サービス事業の拡大を通じて、金融セクター全般の業績を拡大させるとみています。2008年の金融危機以降強化されてきた金融機関に対する規制は、トランプ政権の方針により更なる強化が難しい状況にあります。このように、米国の経済成長による業績拡大に加えて、金融危機以降、投資家の懸念材料であった金融規制が少なくとも更に強化される可能性が低くなったことで、金融セクター全般が上昇しやすい環境が続くと見えています。

◎今後の運用方針

- ・金融セクター内の各市場の成長性や競争環境を精査することで構造的な恩恵を受けると期待される銘柄への投資を行います。
- ・具体的には、自動車向けの損害保険会社や金融商品にかかる取引所に注目しています。自動車向け損害保険は、自動車の高機能化によって本体価格が高くなり保険料が上昇する一方で、安全装備の充実によって事故率は低下するとみられることから有望な投資対象としてみています。取引所は、寡占化が進んでおり、米国や世界経済拡大による恩恵を厳しい競争なしに享受できると考えられることから注目しています。
- ・なお、銘柄選定にあたっては、成長性やバリュエーション面での魅力が高い銘柄に投資することに注力する方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年9月19日～2019年3月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 9 (9)	% 0.085 (0.085)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	4 (3) (0)	0.033 (0.031) (0.002)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	13	0.118	
期中の平均基準価額は、11,128円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

(2018年9月19日～2019年3月18日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 118	千アメリカドル 1,352	百株 125	千アメリカドル 1,429

(注) 金額は受渡代金。

○株式売買比率

(2018年9月19日～2019年3月18日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	310,921千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	489,241千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.63

(注) (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2018年9月19日～2019年3月18日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況 B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人 との取引状況 D	$\frac{D}{C}$	
株式	百万円 150	百万円 4	% 2.7	百万円 159	百万円 0.519829	% 0.3
為替直物取引	38	11	28.9	49	18	36.7

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	426千円
うち利害関係人への支払額 (B)	5千円
(B) / (A)	1.4%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはモルガン・スタンレーMUF G証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券です。

○組入資産の明細

(2019年3月18日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円	
ALLSTATE CORP	24	24	235	26,243	保険
JPMORGAN CHASE & CO	41	40	431	48,149	銀行
CME GROUP INC	12	14	246	27,527	各種金融
S&P GLOBAL INC	9	3	73	8,161	各種金融
BANK OF AMERICA CORP	153	149	436	48,745	銀行
PNC FINANCIAL SERVICES GROUP	18	6	87	9,708	銀行
CITIGROUP INC	32	39	257	28,731	銀行
PROGRESSIVE CORP	35	27	203	22,751	保険
SCHWAB (CHARLES) CORP	47	56	257	28,703	各種金融
SUNTRUST BANKS INC	27	13	86	9,681	銀行
TRAVELERS COS INC/THE	3	3	50	5,689	保険
TORCHMARK CORP	30	22	182	20,401	保険
WELLS FARGO & CO	43	59	300	33,520	銀行
COMERICA INC	16	10	83	9,363	銀行
SVB FINANCIAL GROUP	4	5	142	15,933	銀行
BERKSHIRE HATHAWAY INC-CL B	22	20	424	47,417	各種金融
AON PLC	9	13	234	26,176	保険
AMERIPRISE FINANCIAL INC	6	7	92	10,367	各種金融
NASDAQ INC	—	14	123	13,797	各種金融
MSCI INC	11	10	191	21,364	各種金融
CITIZENS FINANCIAL GROUP	23	16	60	6,764	銀行
REINSURANCE GROUP OF AMERICA	7	15	226	25,293	保険
合 計	株 数	株 数	外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
	584	576	4,431	494,493	
	銘柄数 < 比率 >	21	22	—	< 97.5% >

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の〈 〉内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2019年3月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円	%
	494,493	97.1
コール・ローン等、その他	14,625	2.9
投資信託財産総額	509,118	100.0

(注) 期末における外貨建純資産(505,108千円)の投資信託財産総額(509,118千円)に対する比率は99.2%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=111.58円		
------------------	--	--

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年3月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	513,581,110
コール・ローン等	13,995,962
株式(評価額)	494,493,415
未収入金	4,470,000
未収配当金	621,733
(B) 負債	6,582,806
未払金	4,462,800
未払解約金	2,120,000
未払利息	6
(C) 純資産総額(A-B)	506,998,304
元本	444,306,370
次期繰越損益金	62,691,934
(D) 受益権総口数	444,306,370口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,411円

<注記事項>

- ①期首元本額 449,808,305円
 期中追加設定元本額 42,621,428円
 期中一部解約元本額 48,123,363円
 また、1口当たり純資産額は、期末11,411円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

米国金融株式オープン(為替ヘッジあり)	413,816,730円
米国金融株式オープン(為替ヘッジなし)	30,489,640円
合計	444,306,370円

○損益の状況 (2018年9月19日～2019年3月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	4,885,503
受取配当金	4,853,059
受取利息	34,217
支払利息	△ 1,773
(B) 有価証券売買損益	△26,443,318
売買益	10,460,170
売買損	△36,903,488
(C) 保管費用等	△ 165,945
(D) 当期損益金(A+B+C)	△21,723,760
(E) 前期繰越損益金	87,973,759
(F) 追加信託差損益金	3,028,572
(G) 解約差損益金	△ 6,586,637
(H) 計(D+E+F+G)	62,691,934
次期繰越損益金(H)	62,691,934

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。